

Vision ビジョン

～企業が描く未来像～

【シリーズ】上越・妙高・糸魚川のがんばる企業



羽尾歯科医院 春日山

インタビュー：院長 羽尾 博嗣 氏

これから、歯を「なおす」から「まもる」へ… 予防歯科スタイルを上越に定着させることが目標です。

『ハローアルソン!』（通称ハロアル）という活動をこ存じだろうか。

東京都江東区のレインポータウンFMのパーソナリティを務める、ミュージシャンで歯科医師の今西祐介氏の呼びかけにより、平成16（2004）年にスタートした「歯ブラシュー本でできるボランティア」である。

毎年医療ボランティアとして、フィリピンで歯科治療を行ってきた今西

羽尾 博嗣 氏
（はお・ひろつく）
昭和48（1973）年生まれ。
「新潟大学歯学部第2補綴科」にて博士号取得後、「新潟大学歯医学総合病院」に勤務。平成17（2005）年、「羽尾歯科医院 春日山」を開業し、院長に就任。平成26（2014）年、「医療法人社団 羽尾歯科医院」の理事長に就任。



氏。しかし、日本では治せるはずの虫歯も、フィリピンの貧困地域では、費用や日数などの問題から抜くしかないという。そこで、歯磨きの習慣を広めようと、現地では高額である歯ブラシューを日本で集めて送り届けるという活動をスタート。以来、医療従事者、アーティスト、ラジオリスナー等を通して、全国に広がっていった。

上越にも、このハロアルに賛同し、積極的に活動している歯科医師がいる。歯ブラシューを集める傍ら、自らも医療ボランティアとしてフィリピンで歯科治療に従事。「ハロアルを通して、ますます予防歯科の重要性を再確認しました」と語る、『羽尾歯科医院 春日山』の院長・羽尾博嗣氏に話を聞いた。

「怖い、痛い、行きたくない」を払拭したストレスフリーの 歯科医院を目指して

「幼稚園の頃、夕方になると父の診療所に行っていたことがきっかけかもしれません」と、歯科医師の道を選んだ理由を語る羽尾氏。

昭和48（1973）年、羽尾氏が誕生した年に、父・博英氏によって、上越市寺町に『羽尾歯科医院』（現寺町本院）が開業。以来、地域のホームドクター

として地元住民に愛されてきた。

「痛みでしかめっ面になっている患者さんを笑顔にするなんて、なんてすごい職業なんだろうと子供心に思いました、いつしか歯科医師になることを志していました」。

やがて、新潟大学歯学部大学院を修了した羽尾氏は、そのまま新潟大学歯学総合病院に勤務。そして平成17（2005）年、帰郷を機に『羽尾歯科医院 春日山』を設立する。

開業当初から地域医療の底上げを念頭に、『予防歯科』という考え方を地域に浸透させたいという思いで歯科診療に従事してきたという羽尾氏。

「当時はまだ、歯科医院といえば、悪くなつてから嫌々行く場所というイメージが強かったように感じました。当医院では、従来の『悪いところを治す』といった発想ではなく、定期的な検診や口の中の管理を通じて、『患者さんの健康と幸せを考える』ということに重点を置いています」。

そのためには患者さん自身の意識改革も必要でして、定期的に検診に通っていたかどうかはもちろんです、患者さんに寄り添い、コミュニケーションを深めることで、患者さん自身が歯の健康について考え、自主的に行動していただくことが大切だと考えています」。



「歯を治療するだけでなく、患者さんを取り巻くさまざまな要因を、患者さんと一緒に見つめ直し、患者さん自身が自主的に考えて行動していただくことが大切です」と羽尾氏は語る。

羽尾氏が目指してきた歯科医療とは、①定期予防管理型の歯科医院②ストレスフリーの歯科医院だという。その夢を形にするため、平成27(2015)年に医院を拡張し、歯のクリーニングとメンテナンス専用のスペースを設けた。

「スイスやスウェーデンなど北欧の高福祉国家では、昔から『歯を『なおす』のではなく『まもる』』『痛くなつてから歯医者に行くのではなく、痛くならないように歯医者に通う』という考え方が定着しています。

一方、アメリカでは国民皆保険がなく、小さな虫歯でも高額な自費診療となります。そのため、『虫歯になつて高額な治療費を払わずに済むように、予防することによって安く抑える』という考え方が主流で、患者さんは歯を削られに行くのではなく、歯のクリーニングと口の病気のチェックをしてもらうために行くのです。

ですから、私が学生時代に見たアメリカの歯科医院では、診療室はドクターやスタッフ、患者さんの笑顔であふれ、『怖い、痛い、行きたくない』というストレスから解放されたストレスフリーの空間がそこにはありました。

この2つの歯科医療先進国の予防歯科スタイルを上越でも実現し、皆さんの歯をまもることが歯科医師としての私の夢ですね。

同医院では、子供のための虫歯予防プログラム『はおっこくらぶ』(入会金・年会費無料)や、子供連れで受診できるように託児スタッフが待機している『マザーズデー』(月曜・金曜の9時〜12時30分)、月に1回院内での『予防歯科セミナー』を実施している。

歯ブラシ一本で救える「命」がある

高校生の頃から海外青年協力隊に興味があったという羽尾氏。『ハローアルソン・フィリピン医療ボランティア』への参加も自然な流れだったのかもしれない。

「日本は、誰もが当たり前のように医療を受けることができます。その恵まれた環境の中で、私は無我夢中で歯科診療に邁進してきました。

しかし、『人を思いやる医療の提供』を謳いながら、頭のどこかでは、医院の経営や他人の評価などを意識していたのかもしれない。

そんな時にハロアルのことを知りまして、この活動に携わることで、これ



院内は、診療フロアと、歯のクリーニング・メンテナンス用フロアを完全分離。広々とした待合室には、キッズスペースや熱帯魚の水槽を設置。アロマを焚くことで歯科医院独特の匂いを解消し、ストレスフリーの空間を実現。

までの人生で初めて自分を褒めてあげられるような気がしました」。

日本の歯科医師が中心となって活動しているハロアル。

活動内容は、①現地での歯科を中心とした無償の医療奉仕活動、②歯ブラシ・タオル・固形石鹸などの物資の支援活動、③世界の貧困問題を通じて自らの生活を見直し「真の豊かさ」について考える、④次世代を担う高校生の参加によって真の国際平和と国際貢献について考えてもらう、の4つである。

「フィリピンの貧困地域では、一日1食しか食べられない人たちが多く、慢性的に栄養状態が悪いため、免疫力も低く、むし歯の細菌が全身にまわって死んでしまう子供もいます。そんなフィリピンの子供たちの夢は『15歳まで生きること』です。

ですから、最低も、最高もなく、目の前に来た患者さんを一回で痛みから解放するために、そして命を救うために

羽尾歯科医院 春日山



代表者◇院長 羽尾 博嗣 氏

所在地◇上越市春日山町3-18-41

電話◇025-527-4618

創業◇昭和48(1973)年 ※寺町本院開業

社員数◇14名(パート含む)

事業内容◇歯科医療・歯の保健指導・歯の健康管理・海外での歯科医療ボランティア活動

診療時間◇9:00~12:30、14:30~18:30

休診日◇木曜・日曜・祝日(学会等により臨時休診あり)

営業所◇寺町本院(上越市寺町1-10-47)、春日山分院

公式サイト◇<http://www.hao-dental.com/>

歯を抜くしかないのです。

その歯科医療を現地で手伝ってくれるのが、日本から一緒に行った高校生たちです。

目の前で次々と抜かれていく歯に、高校生たちの表情はこわばり、口数も減ります。それでも彼らは、患者さんの頭部を抑え、ライトを照らし、恐怖と不安に耐えながら治療を受ける現地の人たちを励ましています。

彼らはその過酷な現実の中で、自分の肌で何かを感じ、心が動かされることによって、また、できる人ができない人のために何かをするという『貢献する技術』を学ぶ中で、自律した未来のリーダーへと成長していくのではないかと感じています。

この活動は、さらに多くの協力が必要だと羽尾氏は言う。

「恒常的に、新品の歯ブラシ(ホテル等

の使い捨てタイプも可)、新品のタオル・てぬぐい、新品の固形せっけん(液体ソープは不可)を募集しています。これらの物資がありましたら、当医院の受付までお持ちいただるか、郵送していただければ幸いです」。

最後に、歯科医師として伝えたいことを語ってくれた。

「歯は、生きていくのに最も大切な器官です。異物が入れば検知し、咬めなければ胃腸を壊し、歯周病になれば糖尿病や脳梗塞、心筋梗塞などの全身疾患を引き起こします。たった一本の歯であっても、虫歯になれば大きな痛みを伴います。

自分の歯をまもるためにも、自分に合ったかかりつけの歯科医、歯をまもってくれる衛生士を見つけ、『命の源』ともいえる大切な歯を、いつまでも健康に保っていたきたいと思っています」。